

令和 8 年 4 月 23 日

本学の提案課題が、令和 8 年度「地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム (SATREPS)」に採択されました

ベトナム・ダナン市でカーボンニュートラルと健康都市の  
同時実現に向け、都市政策を AI 駆動で最適化する  
日越連携による新たな国際共同研究を開始

国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) と独立行政法人国際協力機構 (JICA) が実施する「地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム (SATREPS)」の令和 8 年度新規採択研究課題に、藤原章正特任教授 (大学院先進理工系科学研究科) を代表とする提案が条件付きで採択<sup>(※)</sup>されました。全体の申請 90 件のうち、採択されたのは 10 件です。本プロジェクトは、令和 9 年度から 5 年間、JST の委託研究費および JICA による ODA 技術協力のもとで実施されます。

本研究は、ベトナム・ダナン市を対象に、カーボンニュートラルと健康都市の同時実現に向け、AI を活用して都市交通と都市構造を一体的に分析し、政策の設計から評価までを支援する仕組みの構築・実装を行うものです。人の移動行動と都市構造を統合的に把握し、温室効果ガス削減と高齢化に伴う移動制約の解消を両立する都市基盤の構築を目指します。

ダッシュボードによる現状可視化、世界的にも先進的な「まちぐるみシミュレータ」による予測、デジタル・サンドボックスによる政策評価を通じ、データに基づく都市政策の設計・実装を推進します。日本の公共交通指向型開発の知見共有を通じ、事業終了後も自立的に運用可能な都市基盤の構築を図ります。

研究課題名: AI 駆動型モビリティ・プラットフォームを用いたカーボンニュートラルで健康的な都市に関するプロジェクト

研究代表者: 藤原 章正 大学院先進理工系科学研究科・特任教授

日本国参画機関: 広島大学 (代表機関)、名古屋大学、筑波大学、地球環境戦略研究所 (IGES)

ベトナム国参画機関: ハノイ工科大学 (代表機関)、フェニカ大学、ダナン大学工科大学、ベトナム交通運輸大学、ヴィン大学、ダナン AI・半導体研究研修センター

-----  
※外務省による相手国政府との実施にかかわる国際約束の締結、相手国関係機関との実務協議が合意に至り、正式に共同研究を開始するまでの暫定処置

【お問い合わせ先】

広島大学大学院先進理工系科学研究科・渡邊  
TEL:082-424-4314 e-mail: contact@its.hiroshima-u.ac.jp

# SATREPS

地球のために、未来のために

地球規模課題対応国際科学技術協カプログラム

## AI 駆動型モビリティ・プラットフォームを用いた カーボンニュートラルで健康的な都市に関するプロジェクト

- 研究代表者 藤原 章正 (広島大学・特任教授)
- 研究領域 環境・エネルギー (カーボンニュートラル)
- 相手国 ベトナム社会主義共和国

### 【研究課題の概要】

#### モビリティ・プラットフォームの開発と社会実装

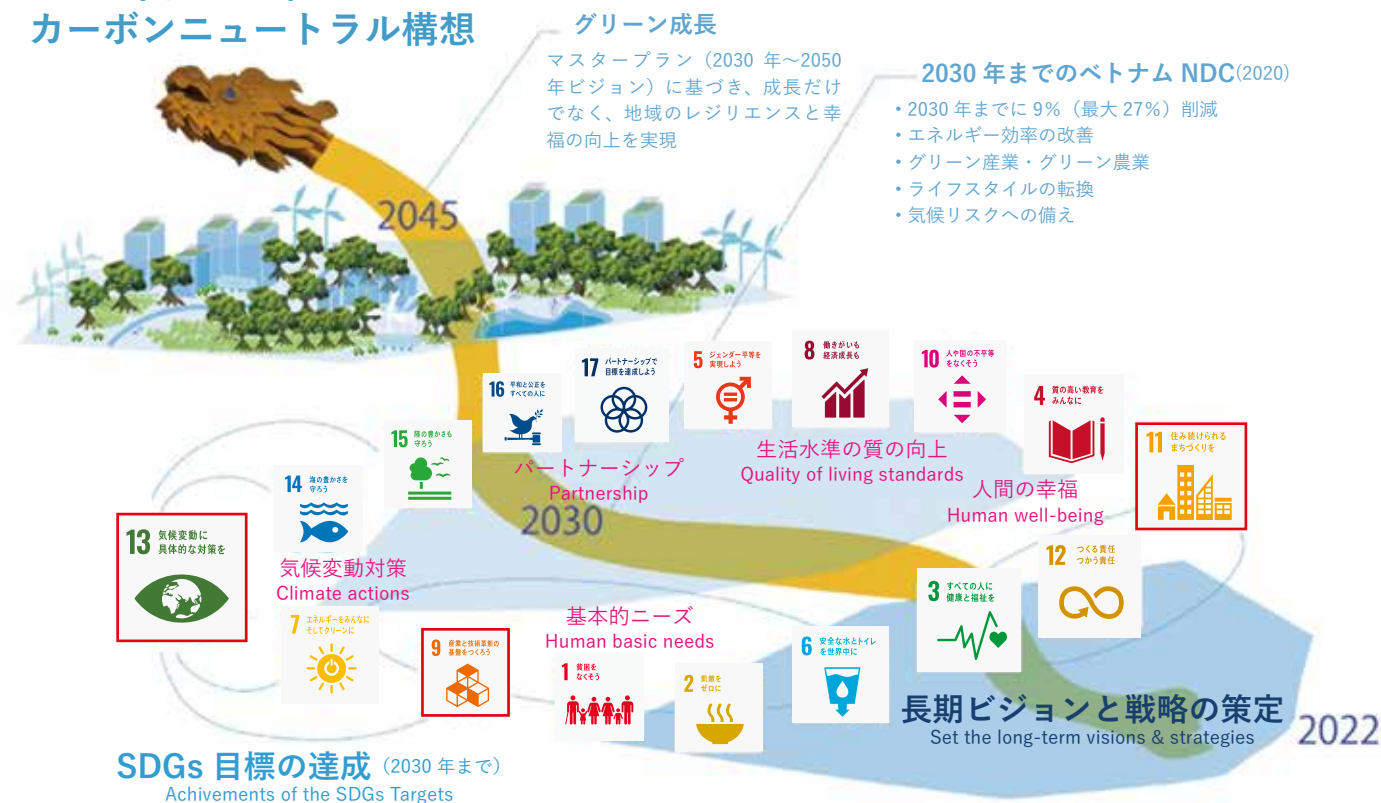
ベトナム・ダナン市を対象に、都市交通と都市構造を統合的に捉え、人と車両の時空間的な移動を高度に把握・予測・制御するためのモビリティ・プラットフォームの開発と社会実装に取り組みます。特に、急速な都市化と高齢化が同時進行する新興大都市において、持続可能な都市運営を実現するための基盤技術の確立を目指します。

#### 都市交通マネジメントによるカーボンニュートラルへの貢献

開発したプラットフォームを活用し、交通需要管理や公共交通の最適化等の施策が、CO<sub>2</sub>排出削減および人々の健康に与える影響を定量的に評価します。これにより、ダナン市のカーボンニュートラル構想の実現に向けた実効性の高い政策立案を支援します。さらに、日本の経験を踏まえ、現地行政と連携した社会実装を進めることで、事業終了後も自主的に運用可能な都市政策基盤の構築に貢献します。

### 2050年ダナン市

#### カーボンニュートラル構想



ベトナムの温室効果ガス削減目標(NDC:パリ協定に基づく国別削減目標、2020年)では、2014年を基準年とするBAU(現状維持)シナリオと比較して、温室効果ガス(GHG)排出量を9%削減することを目指しています。特にエネルギー部門では、BAU比で5.5%に相当する5,150万トン(MtCO<sub>2</sub>e)の削減が見込まれています。また、この削減目標は、国際的な支援が得られた場合には、BAU比で最大27%まで拡大する可能性があると考えられています。